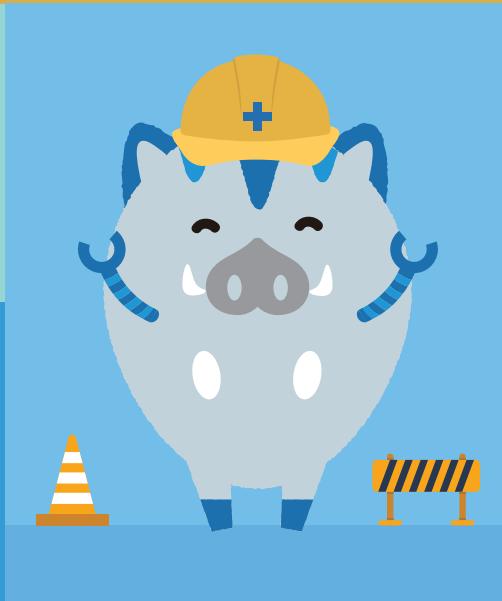
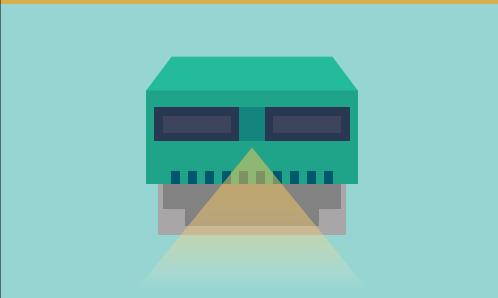


INNOTECH CORPORATION

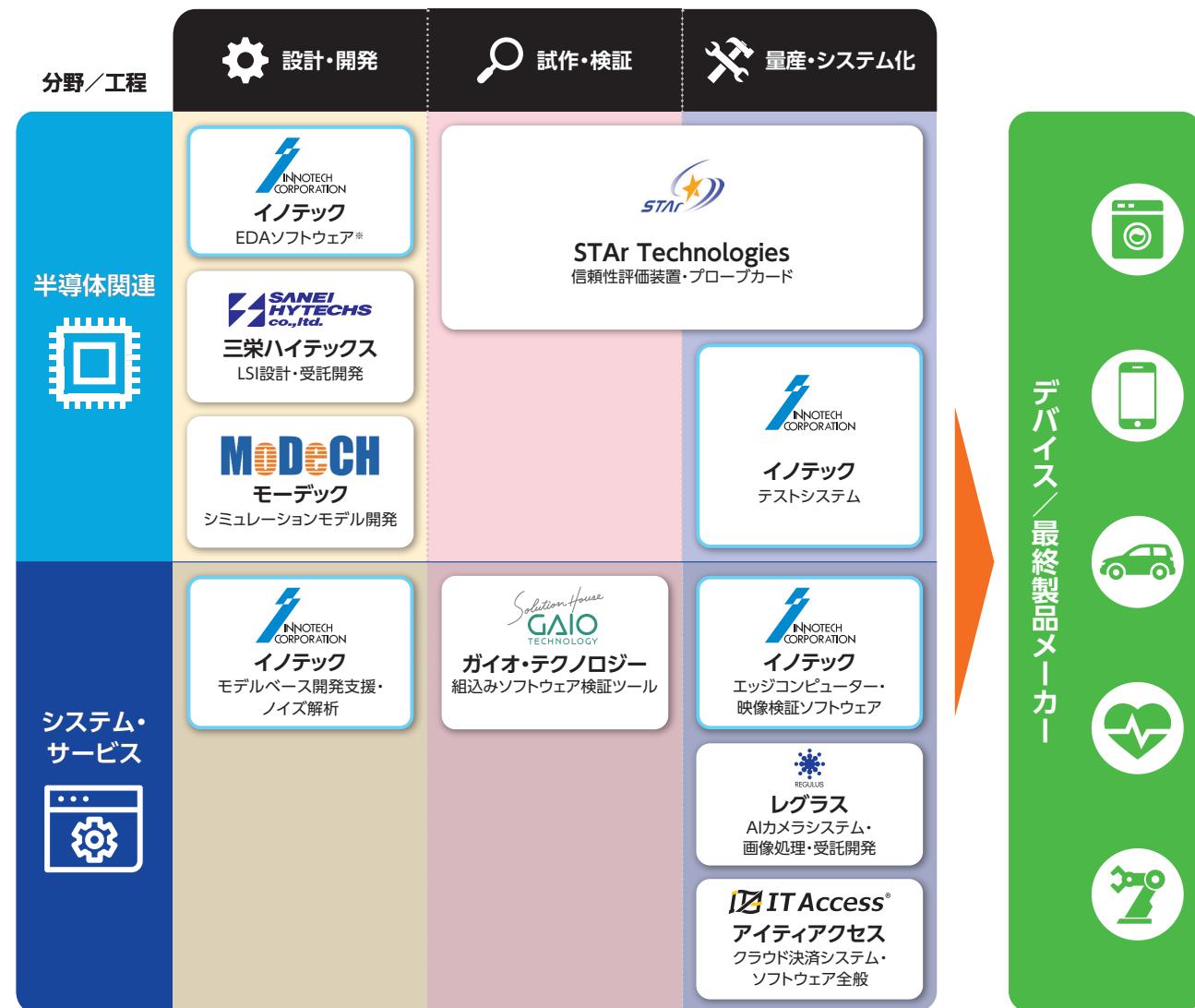
BUSINESS REPORT

2024年度 年次報告書 2024.4.1-2025.3.31



証券コード: 9880

ハードウェア、ソフトウェア、コンサルティングサービスを提供する
総合プロバイダーとして、お客様の技術課題の解決に幅広く貢献します。



※ 半導体設計用ソフトウェア

環境変化に柔軟に対応しつつ、
中期経営計画を
着実に実行していきます。

代表取締役 社長執行役員
大塚 信行



／ 当期の経営環境や業績について

2024年度(2025年3月期)の日本経済は、雇用・所得環境の改善による個人消費の持ち直しや好調な企業業績を背景に設備投資の拡大がみられるなど緩やかに回復しました。一方で、継続的な物価上昇や急激な為替変動の影響が懸念されるほか、地政学的リスクや中国経済の回復遅れなど、先行きは依然として不透明な状況が続いています。

こうしたなか、イノテックグループの当期の業績は、半導体設計関連事業およびシステム・サービス事業が堅調に推移したものの、テストソリューション事業は低迷が続きました。

これらの結果、売上高419億77百万円(前期比1.5%増)、営業利益18億87百万円(同23.7%減)、経常利益17億54百万円(同39.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益12億円(同18.8%減)となりました。

／ 2025年度の業績見込みについて

2025年度(2026年3月期)は、賃上げ等による所得環境の改善やデジタル化・脱炭素を背景とした設備投資の拡大などにより経済の緩やかな回復が見込まれます。一方、物価上昇や資源価格の高止まり、地政学的リスクや米国の通商政策動向など、依然として予断を許さない状況が予想されます。

当社グループにおいては、テストソリューション事業は、メモリ向けテスターの需要回復には未だ時間を要するものの、海外向け新製品の販売伸長が期待されます。システム・サービス事業は、社会インフラ・防衛向け製品の需要が引き続き高いことに加え、産業機械向け製品の回復により好調が継続するものと見込まれます。半導体設計関連事業においては既存顧客との関係強化に加え、システム協調解析ソリューションや受託開発などの新たな付加価値提案に注力し、増収増益を目指します。株主の皆様には引き続きご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

Mission

- ／ 最先端技術と人を繋ぎ、豊かで快適な未来社会に貢献する
- ／ 顧客に寄り添い、ともに課題を解決する
- ／ 「イノテックならではの」付加価値の提供を目指す

配当金のご案内

期末配当につきましては、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2025年6月25日開催の第39回定時株主総会で決議いたしました。

- 1 配当金1株につき**35円**
(中間配当金35円、期末配当金と合わせて年間配当金70円)
- 2 効力発生日(支払開始日)**2025年6月26日**



代表取締役 社長執行役員 大塚 信行

**独自性ある製品・サービスの開発を進め、
競争力強化と収益性向上を図ります。**

**Q 2024年度の業績と
今後の市場環境について**

A システム・サービス事業、
半導体設計関連事業が堅調。
テストソリューション事業は
今後の市場回復を見込んでいます。

2024年度は、システム・サービス事業のアイティアアクセスと
ガイオ・テクノロジーが過去最高益を更新し、業績を下支えし
ました。一方、テストソリューション事業はテスター需要の回
復が依然として遅れており、全体としては期初予想を下回る
厳しい1年となりました。

米国の関税政策の影響や為替の変動など、市況は依然として
不透明ではありますが、システム・サービス事業や半導体設計
関連事業は、引き続き堅調に推移する見通しです。また、生成

AI(人工知能)の普及や進展、経済安全保障への取り組みなど
により、各国政府が半導体産業への支援を強化していること
から、半導体市況の回復が期待されます。これに伴い、テスト
ソリューション事業の業績も徐々に改善していくことが見込まれ
ます。

**Q 中期経営計画(2024年度～2026年度)
1年目における成果と
来年度以降の見通しについて**

A 事業の効率化や収益性の向上など
持続的な成長に向けて
一定の成果がありました。

中期経営計画の初年度である2024年度は、グループ共通
の事業戦略とセグメント別の事業戦略として以下の取り組みを
実施し、一定の成果を上げたとともに、2025年度以降の持続

的な成長に向けた手応えを感じています。

グループ共通の事業戦略においては、まず「**経営資源の再
配分による事業ポートフォリオの最適化**」で進捗がありました。
中期経営計画の数値目標でもあるROIC(投下資本利益率)を
事業部および子会社ごとに算出し、モニタリングの指標と
しました。そのうえで、収益への貢献や将来的な成長が難しい
と判断した事業については撤退することを決定し、経営資源の
集中と成長分野への再配分を実行しました。2024年度には、
ROICが低下していたSTAr Technologiesのファンクション
プローブカード事業を譲渡したことで、既に収益性の改善が
みえてきています。本戦略は、2025年度以降も継続して推進し
ていく予定です。

「**営業利益率の向上**」については、人件費や物価の上昇に
よるコスト増が収益性に影響を及ぼすなかで、競争力と付加価
値の向上が不可欠であると認識しています。そのため、当社独
自の付加価値を持つ製品やサービスの開発を目指したイノベー
ション戦略をグループ全体で推進しています。イノベーションは
必ずしも短期間で実現できるものではありませんが、2025年
度以降に具体的な成果が現れる事業もあると期待しています。

「**業績の安定性向上**」については、特定顧客への依存から
脱却するため、Webマーケティングなどを活用し、顧客層の
拡大を図りました。また、製品ラインナップの充実についても、
各事業で新製品やサービスの開発がいくつか完了しており、
これらの取り組みの成果が2025年度には現れる見通しです。

セグメント別の事業戦略においては、半導体設計関連事業
で新規顧客の開拓と既存顧客へのサービス向上に注力した
結果が2024年度の売上拡大および安定化につながりました。
システム・サービス事業では、ガイオ・テクノロジーが提供する
自動車メーカー向けのエンジニアリングサービスが堅調に
推移しており、今後もソフトウェアの品質向上サービスやモデル
ベース開発の支援サービスに対する需要が拡大すると予想
されます。そのため、これらのサービスに対する開発投資を

一層強化していく方針です。また、アイティアアクセスは、クラウ
ド決済システムによるストック型の収益基盤を確保するととも
に、車載機器向けアプリケーションのサポート需要に応えるこ
とで、持続的な成長を実現する競争力を強化しています。

中期経営計画(2024年度～2026年度)

グループ共通の事業戦略

- 経営資源の再配分による事業ポートフォリオの最適化
- 営業利益率の向上
- 業績の安定性向上



セグメント別の事業戦略

Q 持続的な企業成長に向けて

A ステークホルダーと協創し、
社会への貢献と
企業価値の向上を実現します。

2024年11月から2025年4月にかけて、株主還元策の
一つとして365,100株の自己株式を取得しました。当社は、
公平でバランスの取れた価値の配分を行うことで、すべての
ステークホルダーと協創し、社会への貢献と持続的な企業
価値の向上を実現していきたいと考えております。

冒頭で生成AIについて触れたように、半導体やエレクトロニ
クス業界は中長期的に拡大していくことが予想されます。そ
れに伴い、当社グループを取り巻くビジネス環境が好転して
いくことが見込まれます。この時流を追い風として、グループ
における協働・協創を深化させ、独自のソリューションや付加価
値の高い製品を提供することで、持続的な成長を目指しま
す。株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援とご協力を
賜りますよう、お願い申し上げます。



特集

なぜなに?イノテックグループ事業解説

安全な物流・建設現場を支える

AIカメラシステム

レグラスは、長年、画像処理やカメラに関する事業を展開し、独自のノウハウを培ってきました。AI技術が急速に進展していくなか、産業用車両や建設機械へ搭載するAIカメラシステムの技術開発をリードし、物流や建設現場の安全性の向上に貢献しています。



株式会社レグラス
代表取締役社長

酒井 将

Q. レグラスとはどんな会社?

A. 産業用車両や建設機械に使用されるAIカメラ・画像処理システムを開発・提供しています。

1999年の設立当時のレグラスは、半導体やLSI^{*1}の設計を手がける会社でしたが、徐々にシステム開発やアプリケーション・ソフトウェアの開発を行うようになり、画像処理システムの開発へと事業を移行させてきました。2012年にイノテックグループの傘下に入り、AIカメラシステムの開発を新規事業として立ち上げました。現在は、AIカメラシステムの開発・製造・販売事業と、画像処理システムの受託開発事業の2つが主力事業です。具体的には、検査装置や監視カメラ向けの画像処理システム、家庭用コミュニケーションロボット「LOVOT」のカメラシステムなどを開発してきました。また、イノテックのテストソリューション事業と連携し、イメージセンサーの試験に用いる画像処理の

^{*}1 LSI : Large Scale Integration (大規模集積回路)の略。多数の電子回路素子(トランジスタや抵抗など)を1つの半導体チップ上に集積したものを指す。

技術支援も行っています。

特に強みがあるのは、フォークリフトやショベルカーなどの産業用車両や建設機械に搭載するAIカメラシステムです。フォークリフトやショベルカーでの作業時に、運転者は周囲を視認しづらく、移動・旋回する際に人身事故につながる危険性があります。当社は、車両に設置されたカメラの映像から、周囲にいる人物を検知・判別して、危険を察知した際にアラートを出したり、機械の動作を自動的に停止させたりするAIカメラシステムを提供しています。このAIカメラシステムにより、作業現場の安全性が向上し、重大事故を未然に防ぐことに貢献しています。

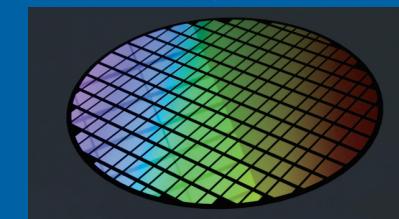
建機 / フォークリフト / 社会インフラ



車載 / ドローン / 農業 / ロボット



FA / 検査、テスター / イメージセンサー



Q. レグラスのAIカメラシステムの強み・特長は?

A. 創業以来培ってきた技術・ノウハウでこそ実現できる 検知の精度と反応速度が特長です。

当社のAIカメラシステムの強み・特長は、AIという演算負荷の高い技術をカメラに搭載しながらも、検知の精度と反応速度を両立させている点にあります。

検知の精度については、未検知や誤検知を頻繁に起こしてしまうと現場の作業効率に悪影響を及ぼします。また、検出した人物が危険な位置にいるかを判断するために、人物の位置を正確に測ることが重要です。通常、カメラで距離を測る際はステレオカメラを使用しますが、当社は1つのカメラで距離を測る技術の特許を取得しており、人物の正確な位置計算をコストを抑えながら実現しています。加えて、フォークリフトや建設機械を使う作業現場では人や荷物が混在しているうえ、一般道路のように信号や白線、標識などの目印はありません。このような環境で人物を正確に検知するには、暗所でもしっかりと撮影できる基本的なカメラ技術と、作業現場の膨大なデータをAIに繰り返し

返し学習させることが重要です。こうした技術研鑽と学習作業の積み重ねが他社との差別化につながっています。

また、正確な検知ができていても反応が遅いと衝突のリスクが高まるため、反応速度の速さも求められます。高速処理を実現するためにハイエンドな画像処理装置を使用するとコストが増加してしまうため、当社ではコンパクトなディープラーニング^{※2}の技術を駆使して、適切なコストで処理速度を最適化しています。

さらに、フォークリフトや建設機械に搭載するカメラには、振動や衝突への耐久性や防水性も求められます。当社のカメラは、厳しい環境下でも高い演算性を保ちながら安定して動く耐環境性能も実現しています。

これらの強みや特長は、当社が創業以来、レンズ、イメージセンサー、画像伝送技術、CPU^{※3}処理など、さまざまなカメラ技術を磨き続けていることで実現しています。

※2 ディープラーニング：AIの一分野である機械学習の手法の一つで、多層のニューラルネットワークを用いて、データから特徴やパターンを自動的に学習する技術。
 ※3 CPU：Central Processing Unit(中央処理装置)の略。コンピューターの中核的な演算装置で、さまざまな命令を解釈・実行する役割を持つ。



開発コスト・量産化コストを抑えながら求められる機能を実現

Q. 今後の展望は?

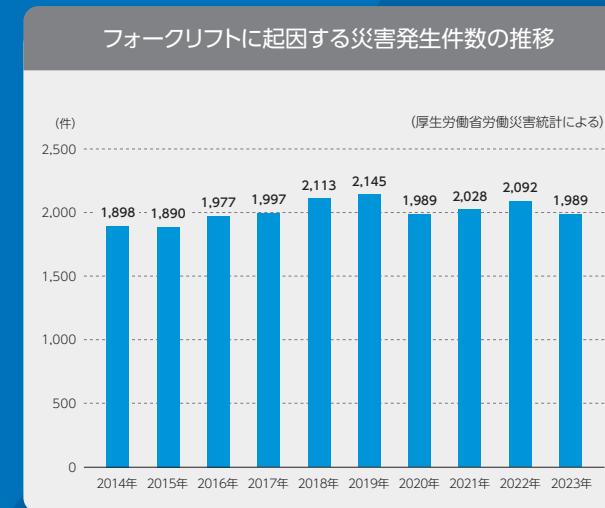
A. さらなる技術開発で強みのある領域に磨きをかけ、 物流や建設現場の安全に貢献します。

あらゆる領域での普及により、AIカメラの市場は、今後もますます拡大していくことが予想されます。しかし、同時に製品の均一化が進み、競合との差別化が課題となっています。

当社は、産業用車両や建設機械の領域に強みがありますが、この領域へのAIカメラシステムの導入は、これから一層普及が見込まれています。例えば、フォークリフトに起因する労働災害の発生件数は、ここ15年ほど高止まりしている状態で、安全教育などのソフト面での対策だけでなく、ハード面での安全対策の重要性が高まっています。今後もこの領域にリソースを投入し、独自の付加価値を創出することで、持続的な成長を図ります。

また、物流や建設の業界では、働き方改革関連法の改正により労働時間の制約が厳しくなるなかで、安全性を高めながらも、業務の効率化や自動化が求められています。このような社会的要請に対しては、AIカメラのネットワークシステム化により、少人数かつ労働時間が制約されている状況においても、従来以上の成果を生み出せる効率的な環境構築に貢献できると考えており、技術開発を推進していきます。

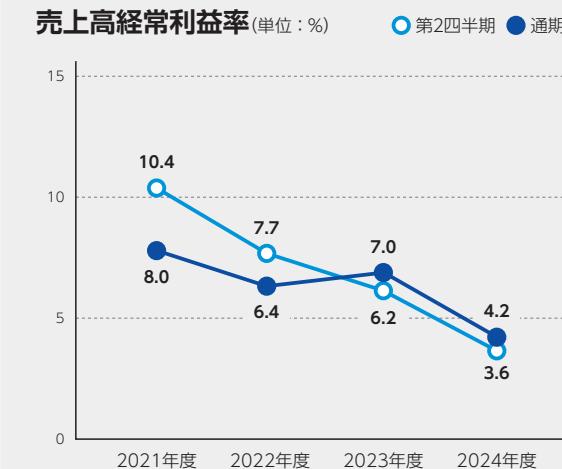
AI技術は日増しに向上していきますが、当社はAIをあくまでも手段と捉えています。そのうえで、当社が培った技術や強みを発揮し最適な技術を提案することで、現場の問題や将来の課題解決に貢献していきたいと考えています。



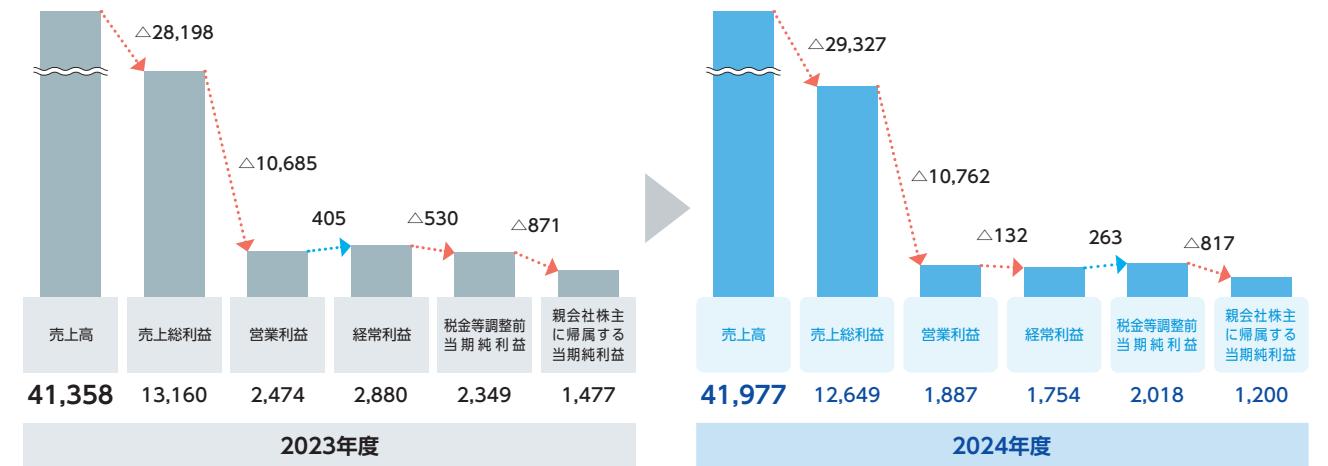
売上高 **419** 億円 (前期比1.5%増)



経常利益 **17** 億円 (前期比39.1%減)



連結損益計算書(単位:百万円)



(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2023年4月1日~ 2024年3月31日	2024年4月1日~ 2025年3月31日
売上高	41,358	41,977
売上原価	28,198	29,327
売上総利益	13,160	12,649
販売費及び一般管理費	10,685	10,762
営業利益	2,474	1,887
営業外収益	898	854
営業外費用	492	987
経常利益	2,880	1,754
特別利益	3	339
特別損失	534	75
税金等調整前当期純利益	2,349	2,018
当期純利益	1,532	1,304
非支配株主に帰属する当期純利益	54	104
親会社株主に帰属する当期純利益	1,477	1,200

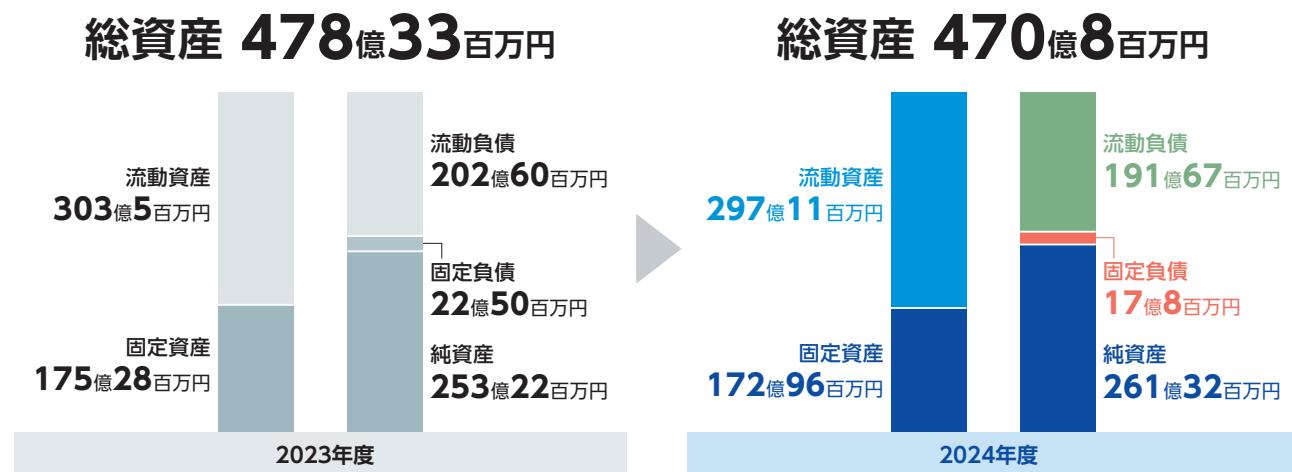
◎連結損益計算書のポイント

主な事業の概況は、次のとおりです。

- テスター事業は、イメージセンサー向けデコーダーボードの販売は伸長したものの、メモリー向けテスターの需要回復は遅れており減収。
- STAr Technologiesは、信頼性評価装置に係る部材調達遅れの影響があったものの、プローブカード販売が堅調に推移し邦貨換算後では増収増益。
- EDAソフトウェアは、既存顧客との長期契約の更新が概ね順調だったことなどから増収。
- 三栄ハイテックスのLSI設計受託ビジネスは、ベトナム子会社のAI関連事業は堅調に推移したものの、国内事業の減速や中国事業が低調だったことなどにより減収減益。
- アイティアアクセスは、ライセンス販売や受託開発が堅調に推移し、クラウド決済サービス収入も伸長したことにより増収増益。
- ガイオ・テクノロジーの車載向け組込みソフトウェア検証ツール販売およびエンジニアリングサービスは、検証ツール販売が堅調に推移したことに加え、自動車関連の需要増によりエンジニアリングサービスが大幅に伸長し増収増益。

連結貸借対象表

(2025年3月31日現在)



● 総資産のポイント

当期末の総資産は、470億8百万円となり、前期末に比べ8億25百万円減少いたしました。これは主に、投資有価証券や売掛金が増加したものの、現金及び預金や機械装置及び運搬具が減少したことなどによるものです。

● 負債のポイント

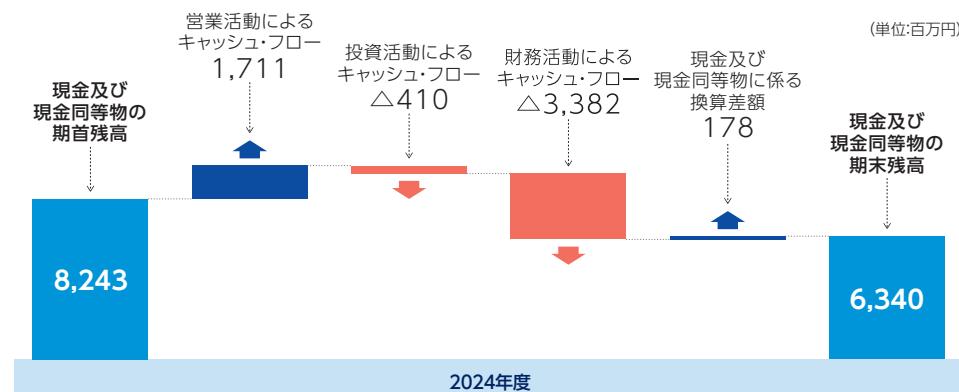
当期末の負債は、208億75百万円となり、前期末に比べ16億35百万円減少いたしました。これは主に、短期借入金や長期借入金が増加したことなどによるものです。

● 純資産のポイント

当期末の純資産は、261億32百万円となり、前期末に比べ8億10百万円増加いたしました。これは主に、自己株式が増加したものの、為替換算調整勘定や利益剰余金が増加したことなどによるものです。この結果、自己資本比率は54.1%と前期末に比べ2.5ポイント増加いたしました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(2024年4月1日～2025年3月31日)



● 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当期末の現金及び現金同等物の残高は、63億40百万円となり、当期首残高に比べ19億2百万円減少いたしました。これは主に、営業活動によって17億11百万円を得たものの、投資活動によって4億10百万円、財務活動によって33億82百万円を使用したためであります。

株式の状況

発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	13,700,000株
株主数	13,477名

大株主の状況

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,964	14.87
Castlewild Unlimited Company	456	3.45
株式会社みずほ銀行	420	3.18
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	418	3.17
澄田 誠	406	3.08
イノテック社員持株会	337	2.55
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	326	2.47
JPモルガン証券株式会社	191	1.45
株式会社北陸銀行	185	1.40
株式会社三井住友銀行	160	1.21

※持株比率は自己株式490千株を控除して計算しております。

所有者別株主分布・所有者別株式分布

	所有者別株主分布 13,477名	所有者別株式分布 13,700千株
政府・地方公共団体	1名 0.01%	41千株 0.30%
金融機関	20名 0.15%	3,605千株 26.31%
証券会社	33名 0.24%	416千株 3.04%
その他の法人	83名 0.62%	309千株 2.26%
外国法人等	127名 0.94%	2,298千株 16.78%
個人その他	13,213名 98.04%	7,028千株 51.30%
合計	13,477名 100.00%	13,700千株 100.00%

※「個人その他」には自己名義株式1名を含んでおります。 ※「個人その他」には自己名義株式490千株を含んでおります。

※本報告書の記載金額および数量は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

会社概要

商号	イノテック株式会社 INNOTECH CORPORATION
設立	1987年1月5日
資本金	105億17百万円
従業員数	連結 1,560人 個別 212人
所在地	本社/物流センター 神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
グループ企業	三栄ハイテックス株式会社 ガイオ・テクノロジー株式会社 アイティアアクセス株式会社 株式会社レグラス 株式会社モーデック STAr Technologies, Inc. INNOTECH FRONTIER, Inc.

取締役および執行役員

(2025年3月31日現在)

代表取締役 社長執行役員	大塚 信行
代表取締役 専務執行役員	棚橋 祥紀
社外取締役 (監査等委員)	安生 一郎
社外取締役 (監査等委員)	中江 公人
社外取締役 (監査等委員)	廣瀬 史乃
常務執行役員	鍋木 祥介
執行役員	劉 俊良
執行役員	奥津 明洋
執行役員	菅 彰吾

※安生一郎、中江公人、廣瀬史乃は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日
定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して
定めた日

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。

株主名簿管理人
および特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〒168-0063
郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-782-031
電話照会先 ※照会先受付時間:9:00~17:00
(土・日・祝日および12/31~1/3を除く)

インターネット
ホームページURL <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会およびご住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告方法 当社のホームページに掲載する。ただし当社ホームページにて公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。
<https://www.innotech.co.jp/>

上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場

IRサイトのご案内

<https://www.innotech.co.jp/ir/>

イノテックは、株主の皆様とのコミュニケーションの一環として、IRサイトを開設しています。このサイトでは、業績・財務データや経営ビジョン・方針などを報告するとともに、「個人投資家の皆様へ」と題したコーナーを設け、当社のビジネスを分かりやすく説明しています。ぜひ、アクセスいただくとともに、ご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。



IR情報

個人投資家の皆様へ

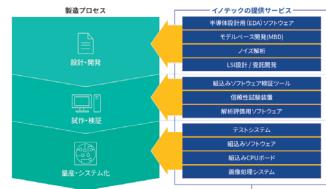


個人投資家の皆様へ

このページでは、一般の皆さまに馴染みのないイノテックという会社について、お知りやすく紹介しています。「つまりはどんな会社なのか」、「なぜ」投資できるのか、「だから」となる理由があり、「そして」どんな価値を創っているのか、話を聴いていただいています。

つまりイノテックは

半導体だけでなく自動車/産業機械などの製造プロセスを、上流の設計開発から下流のテストシステムまでトータルに実現する企業グループです。



イノテック公式キャラクター
イノ吉



本社：〒222-8580 神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目17番6号

Tel: 045-474-9000(代) Fax: 045-474-9089

<https://www.innotech.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています